

平成25年度第1回 土岐市男女共同参画懇話会

資料2 市民意識調査の結果

■目次

1. 市民意識調査の概要	2
2. 回答者の属性	3
3. 調査結果の概要	4
(1) 施策全体の満足度、土岐市の暮らしやすさ等	
(2) 各施策の満足度、重要度	
4. 男女平等に関する意識	7
(1) 総括	
(2) 各分野の状況	
5. 生活全般についての理想と現実	12
(1) 理想と現実の状況	
6. 結婚、家庭等についての考え方	15
(1) 総括	
(2) ～(5) 結婚、夫婦の役割分担、子ども、離婚についての考え方	
7. 男女共同参画社会の実現に向けて	20
(1) 男女がともに家庭生活や地域活動に参加できるようにするためには	
(2) 男女共同参画社会の実現に向けて必要なことは	
8. 自由意見	24

1. 市民意識調査の概要

調査目的	土岐市男女共同参画プランが平成25年度で期間満了することに伴い、次期プランの策定にあたり、市民の皆さんの意識を調査し、必要な施策や出された意見を反映するため
調査期間	平成25年1月（発送:1月11日、締め切り:1月31日）
調査方法	毎年実施することとしている市民意識調査の項目として実施 郵送による配布、回収
調査対象者	平成24年12月1日現在を基準とし、18歳以上の市民から無作為抽出
調査人数	2,000人
回収数、回収率	784人 39.2%

※ 少数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、百分率の合計値等が100.0%にならないことがあります。

※ 男女共同参画プランの中間期となる平成20年6月に同様の調査を単独で実施（以下、「前回調査」と表記。）しており、経年の比較を行っています。なお、前回調査は20歳以上の市民1,000人が対象で、回収率は47.4%となっています。

※ 同様の調査を内閣府及び岐阜県でも実施しており、動向等の比較を行っています。

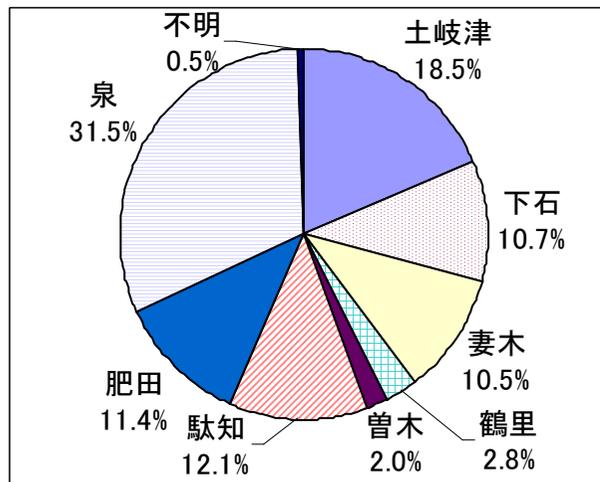
内閣府(全国) … 男女共同参画社会に関する世論調査 平成24年10月実施 20歳以上の国民5,000人 回収率60.7%

岐阜県 … 男女共同参画に関する県民意識調査 平成24年8月実施 20～70歳の県民2,000人 回収率46.6%

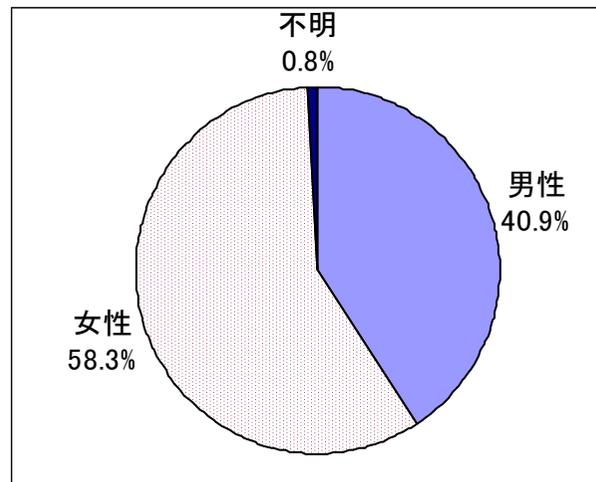
※ 「3. 調査結果の概要」以降の結果については、未回答(不明)を除いて割合等を算出しており、各項目ごとの総数は一致しません。

2. 回答者の属性

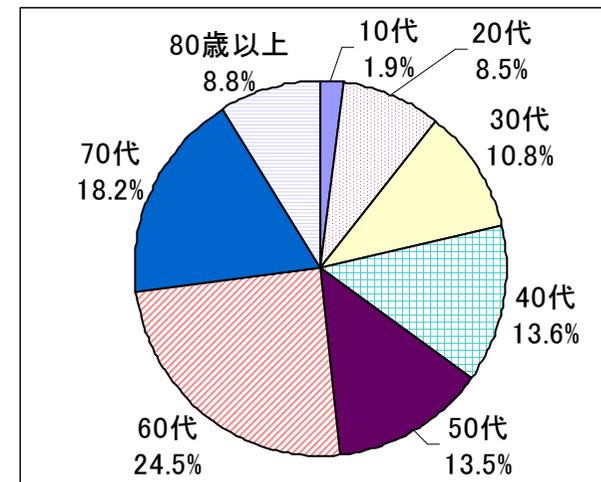
【図1 居住地区】



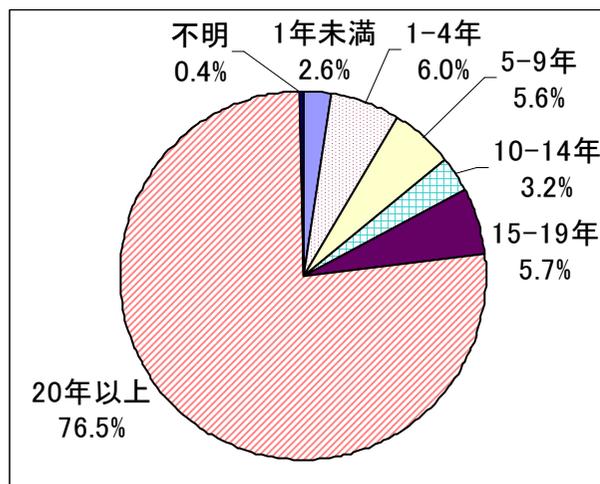
【図2 性別】



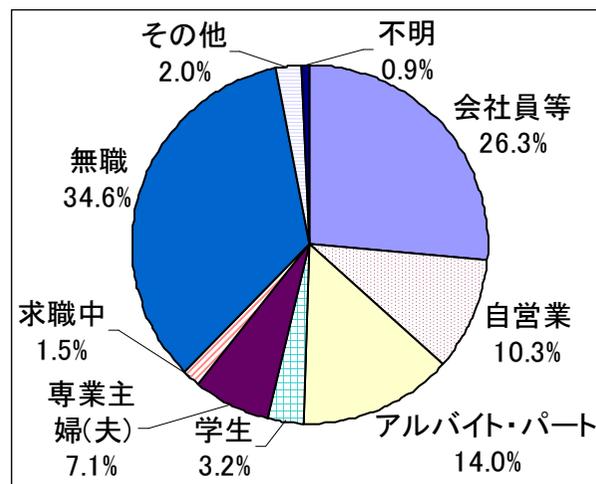
【図3 年齢】



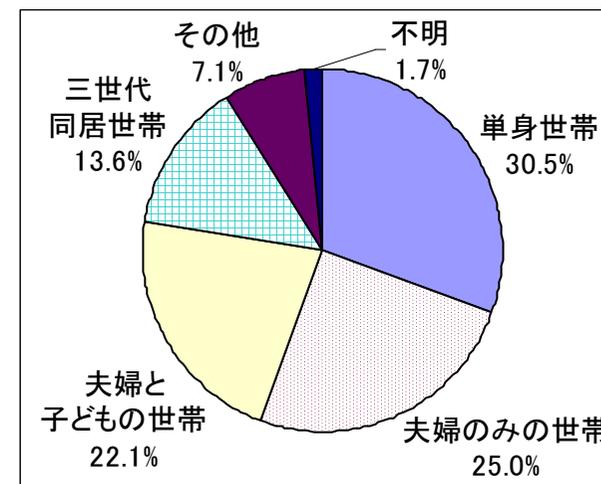
【図4 居住年数】



【図5 職業】



【図6 世帯構成】

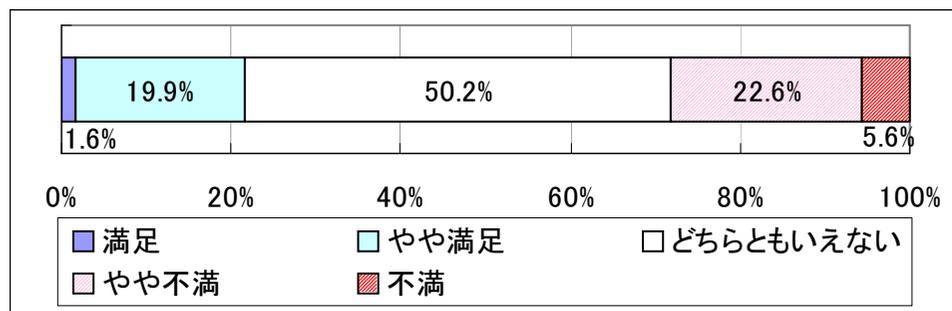


3. 調査結果の概要

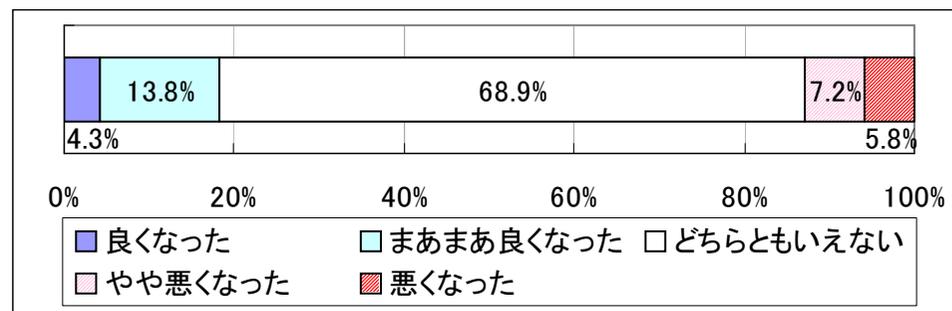
(1) 施策全体の満足度、土岐市の暮らしやすさ等

- 市の取り組みを総合的に評価した満足度(図7)は、「満足・やや満足」が21.5%でしたが、「不満・やや不満」は28.2%となり、不満と評価されている割合が高い結果となりました。
- 全体の満足度について5年前と比較(図8)すると「良くなった・まあまあ良くなった」が18.2%と、「悪くなった・やや悪くなった」の13.0%を上回っています。
- 土岐市の暮らしやすさ(図9)については60.3%の方が「暮らしやすい・まあまあ暮らしやすい」と回答されており、「暮らしにくい・あまり暮らしやすいとはいえない」の17.9%を上回っています。
- 今後の居住意向(図10)については、「土岐市で暮らしたい」と回答された割合は50.8%と「市外で暮らしたい」の9.2%を大きく上回っています。

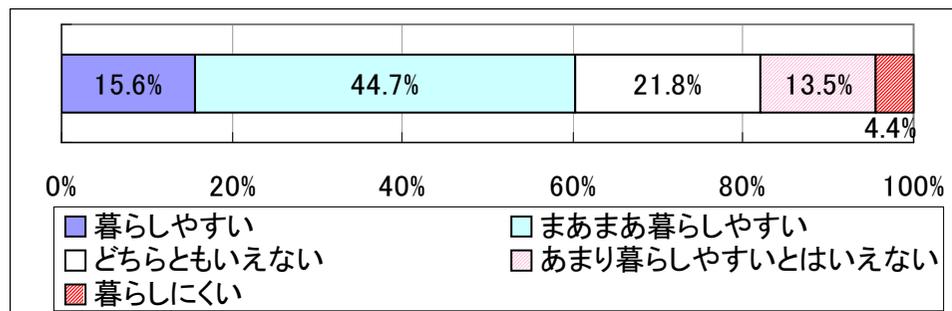
【図7 施策全体の満足度】



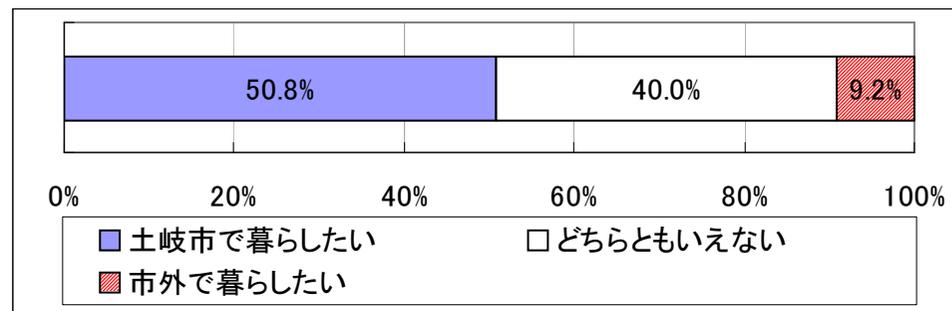
【図8 施策全体の満足度の5年前との比較】



【図9 土岐市の暮らしやすさ】



【図10 今後の居住意向】



3. 調査結果の概要

(2)各施策の満足度、重要度①

市で実施している47の施策について、満足度と重要度を5段階評価で尋ねました。満足度、不満度、重要度の高い施策は以下の表1～3のとおりとなっています。

※ 満足度...「満足」「やや満足」をあわせた割合、不満度...「不満」「やや不満」をあわせた割合、重要度...「重要」「やや重要」をあわせた割合

- 市民の皆さんが満足と感じている施策は「ごみ処理対策」や「資源のリサイクル対策」など環境衛生分野の施策があげられています。逆に不満と感じている施策は「土岐市駅周辺の整備」や「雇用環境の充実」といった施策があげられています。満足度・不満度とも上位の施策は前回調査と同様の結果となっています。
- 今後重要であると考えられている施策は「医療機関の充実」、「緊急医療体制の整備」、「保健・健診サービスの充実」など保健福祉分野の施策があげられています。
- 「男女共同参画の推進」については、満足はしていないが、不満にも感じていないと考えられており、他施策と比較すると重要度も高くない結果となっています。

【表1 満足度の高い施策】

	施策名	満足度
1	ごみ処理対策	44.1%
2	資源のリサイクル対策	40.6%
3	上水道の整備	38.2%
4	保健・健診サービスの充実	34.8%
5	下水道の整備	34.6%
36	男女共同参画の推進	9.6%

【表2 不満度の高い施策】

	施策名	不満度
1	土岐市駅周辺の整備	53.2%
2	雇用環境の充実	47.4%
3	商業の振興	43.5%
4	観光の振興	39.2%
5	医療機関の充実	38.0%
41	男女共同参画の推進	13.1%

【表3 重要度の高い施策】

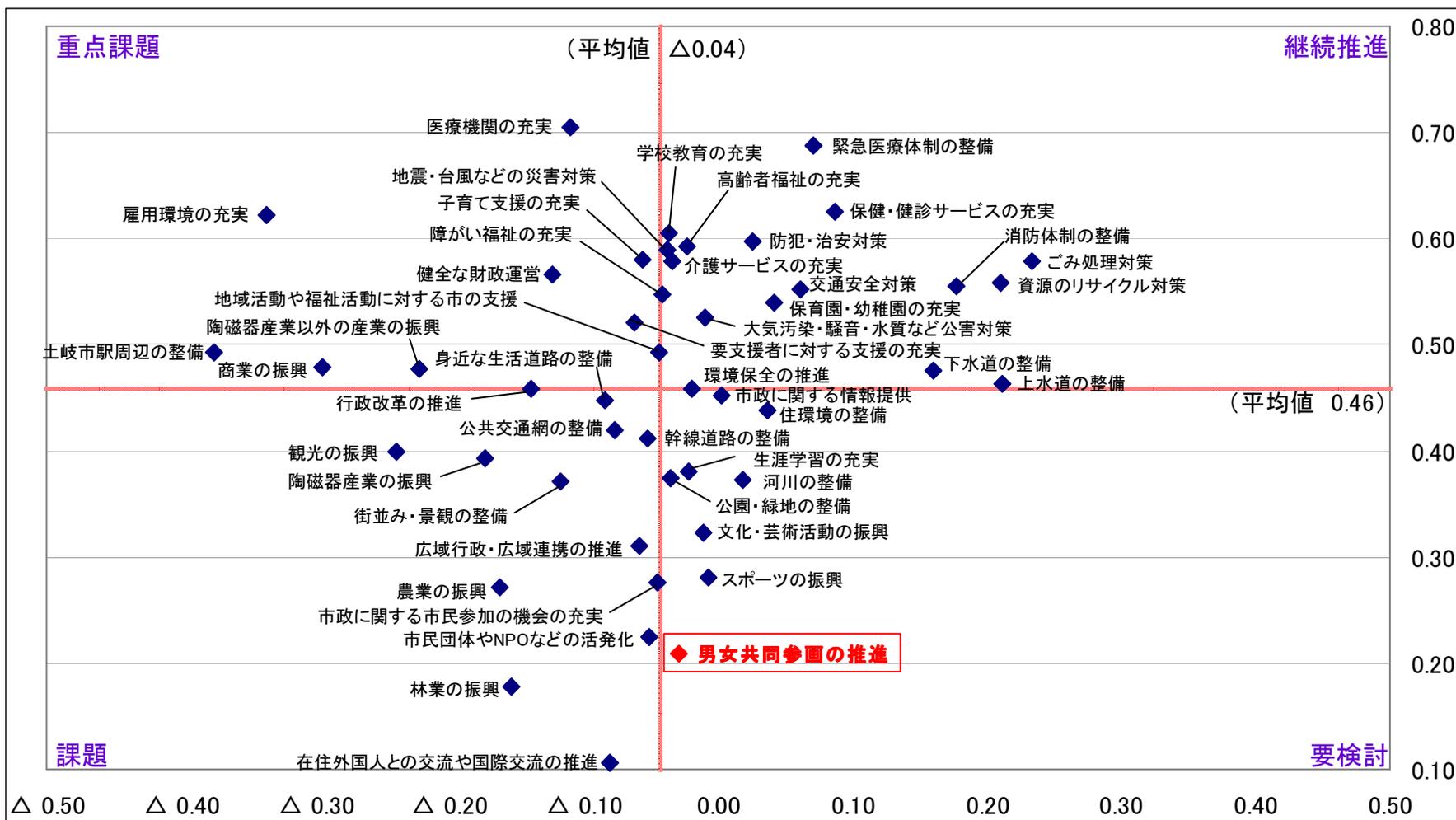
	施策名	重要度
1	医療機関の充実	75.4%
2	緊急医療体制の整備	73.1%
3	保健・健診サービスの充実	71.3%
4	高齢者福祉の充実	68.3%
5	雇用環境の充実	67.6%
45	男女共同参画の推進	32.1%

3. 調査結果の概要

(2)各施策の満足度、重要度②

47の施策の満足度と重要度を点数化し、平均値をとったものを満足度指数(横軸)、重要度指数(縦軸)として表し、グラフ化した結果、以下の図11のようになっています。

【図11 満足度指数と重要度指数による施策評価マトリクス】



※ 満足・重要...1点、やや満足・やや重要...0.5点、どちらともいえない...0点、やや不満・あまり重要でない...-0.5点、不満・重要でない...-1点 として点数化

4. 男女平等に関する意識

(1) 全体結果

- 家庭生活や法律や制度など8つの分野について、男女の地位が平等になっているかを尋ね、回答を点数化(表4、図12)したところ、すべての分野において男女平等を表す“0”を下回っており、「男性が女性よりも優遇されている」と感じている方が多いという結果になりました。
- 特に男性が優遇されていると感じている(マイナスの大きい)分野は、「政治の場」で、次いで「社会全体」となっています。逆に最も男女平等であると感じている分野は「学校教育」となっています。
- 性別で見ると、すべての分野において女性のほうが数値が低く男性優遇と考えられており、特に「法律や制度」、「社会全体」の分野で男性との差が大きくなっています。

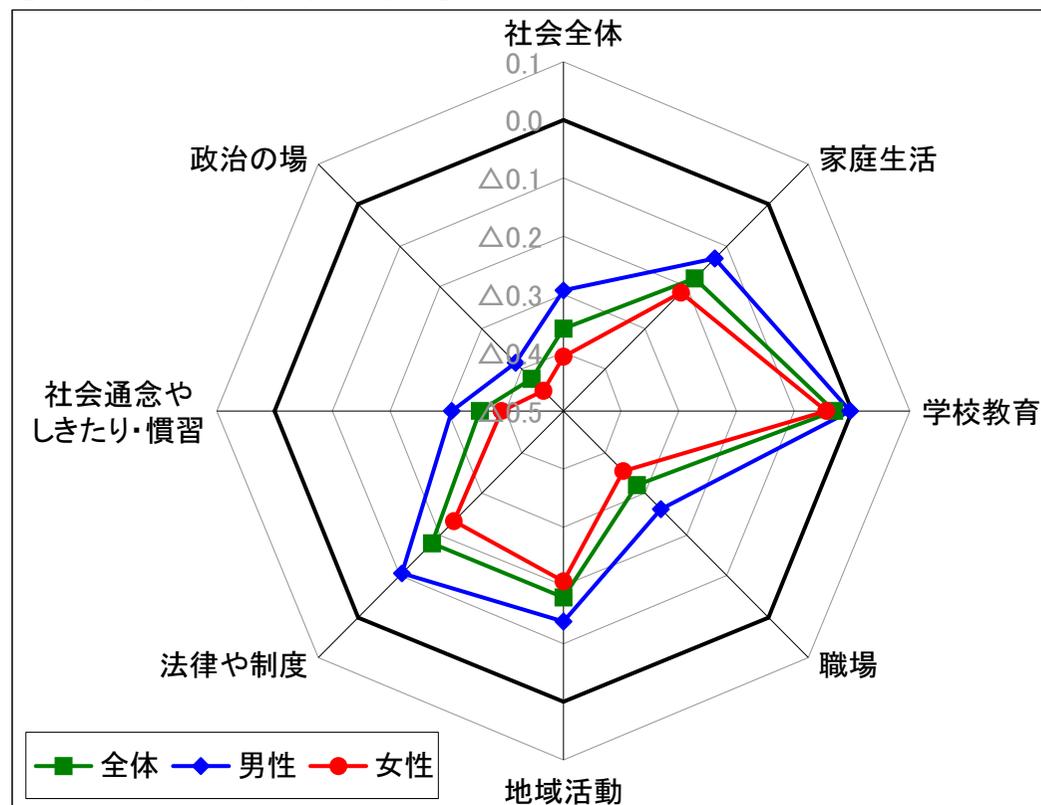
【表4 男女平等に関する意識】

	全体	男性	女性
家庭生活	△ 0.18	△ 0.13	△ 0.21
学校教育	△ 0.03	△ 0.01	△ 0.05
職場	△ 0.32	△ 0.26	△ 0.36
地域活動	△ 0.18	△ 0.14	△ 0.21
法律や制度	△ 0.18	△ 0.10	△ 0.23
社会通念やしきたり・慣習	△ 0.36	△ 0.31	△ 0.39
政治の場	△ 0.42	△ 0.38	△ 0.45
社会全体	△ 0.36	△ 0.30	△ 0.41

※以下のように回答を点数化し、平均点を算出しています。

- 男性が優遇されている…△1点
- どちらかといえば男性が優遇されている…△0.5点
- 平等である…0点
- どちらかといえば女性が優遇されている…0.5点
- 女性が優遇されている…1点

【図12 男女平等に関する意識】

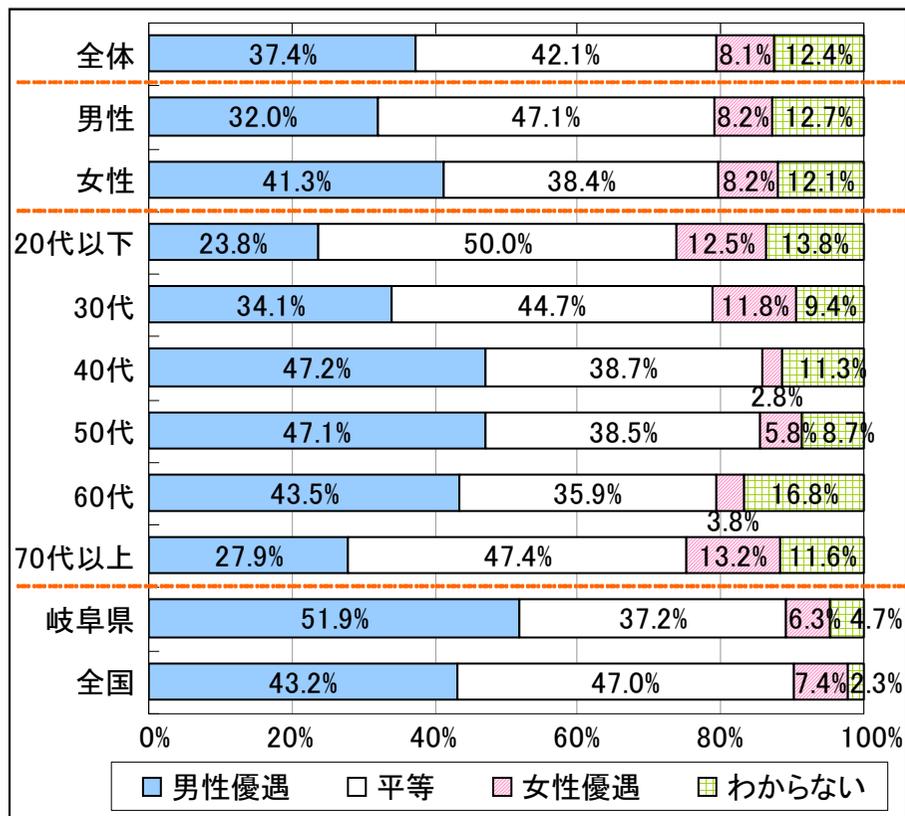


4. 男女平等に関する意識

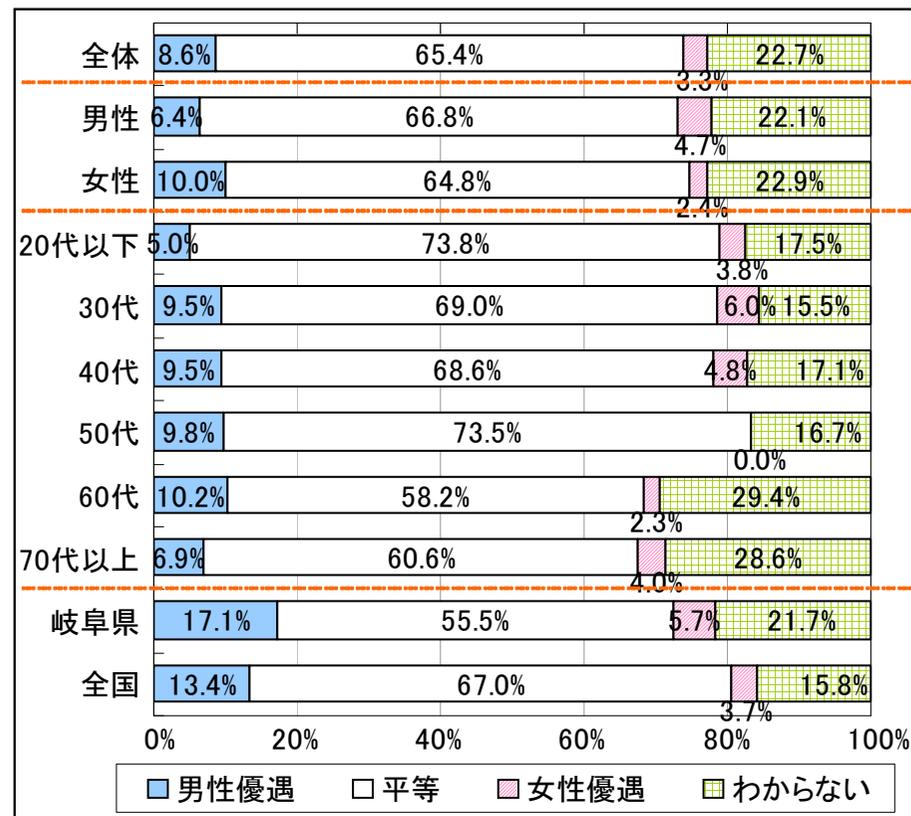
(2)各分野の状況①（家庭生活、学校教育）

- 【家庭生活】(図13)においては、全体では「平等である」の割合が最も高くなっていますが、女性や30代～50代では「男性優遇である」の割合が上回っています。「男性優遇である」の割合は岐阜県や全国よりも低くなっています。
- 【学校教育】(図14)では、すべて「平等である」の割合が最も高くなっており、「男性優遇である」の割合も低くなっています。特に学校教育を受けてからの期間が短い20代以下では最もその傾向が顕著となっています。

【図13 家庭生活】



【図14 学校教育】

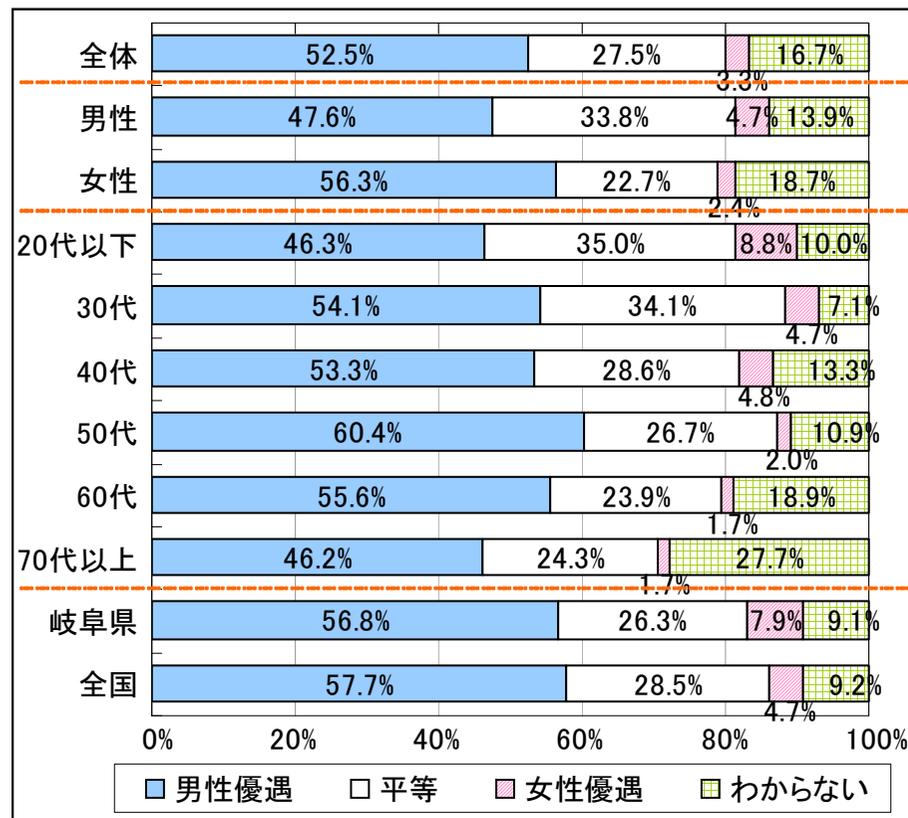


4. 男女平等に関する意識

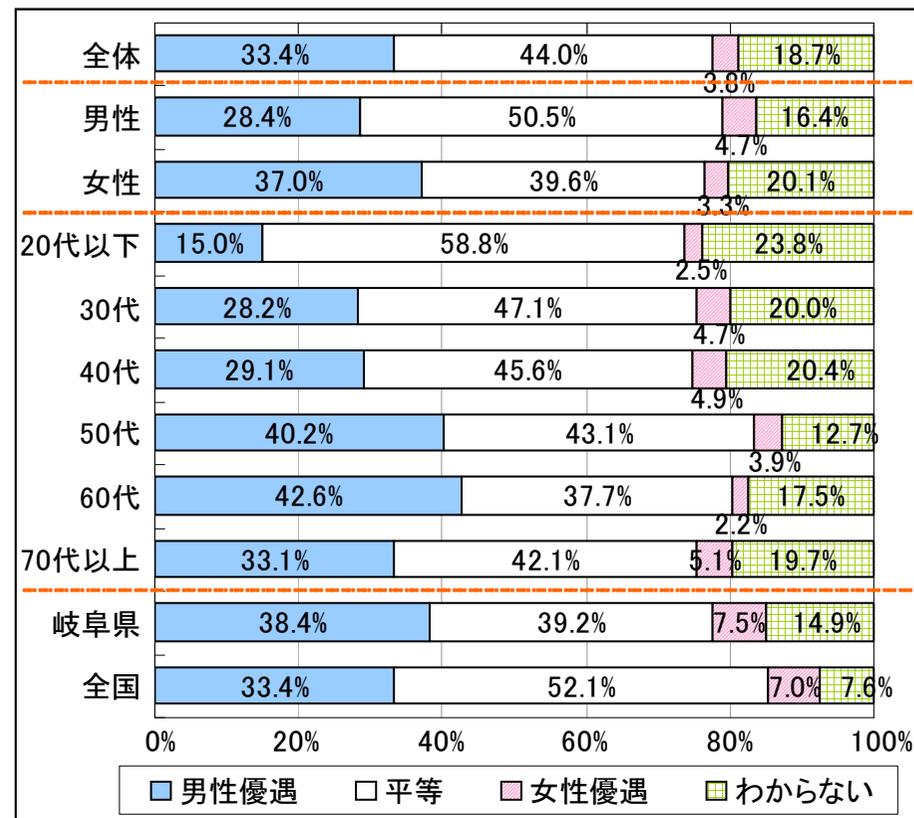
(2)各分野の状況②（職場、地域活動）

- 【職場】(図15)においては、全体で「男性優遇である」の割合が半数を超えています。年齢別では50代が最も「男性優遇である」の割合が高くなっており、20代以下や70代以上ではその割合が低くなっています。
- 【地域活動】(図16)では、「平等である」の割合が最も高くなっています。年齢別では「男性優遇である」の割合が20代以下で最も低く、50代以上の半分以下の割合となっています。

【図15 職場】



【図16 地域活動】

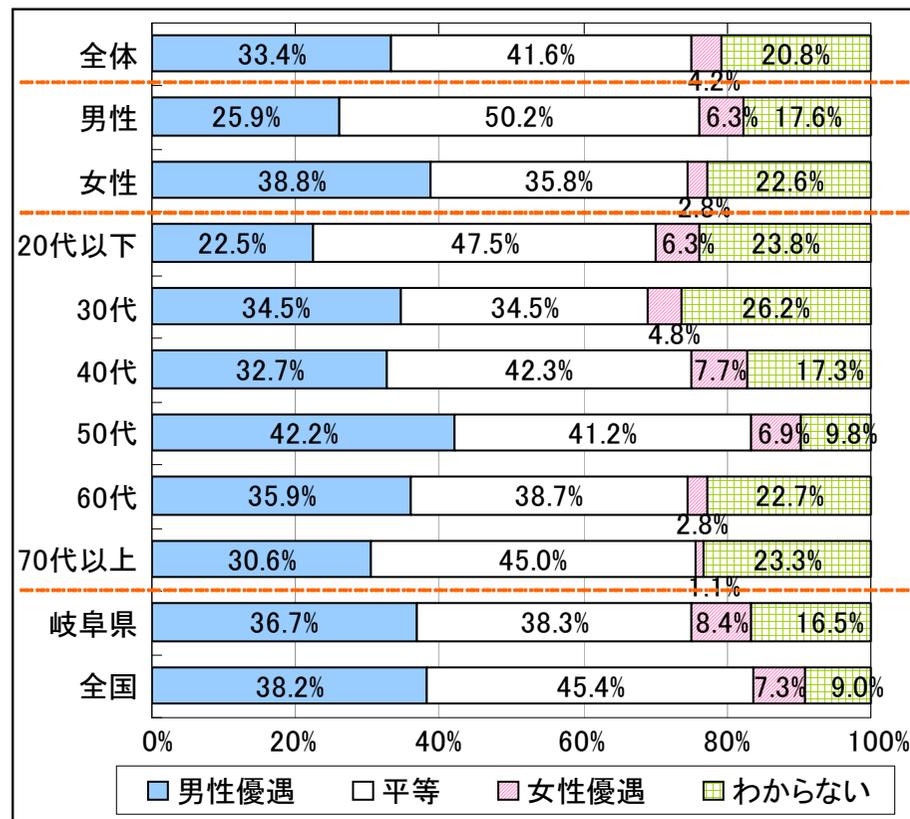


4. 男女平等に関する意識

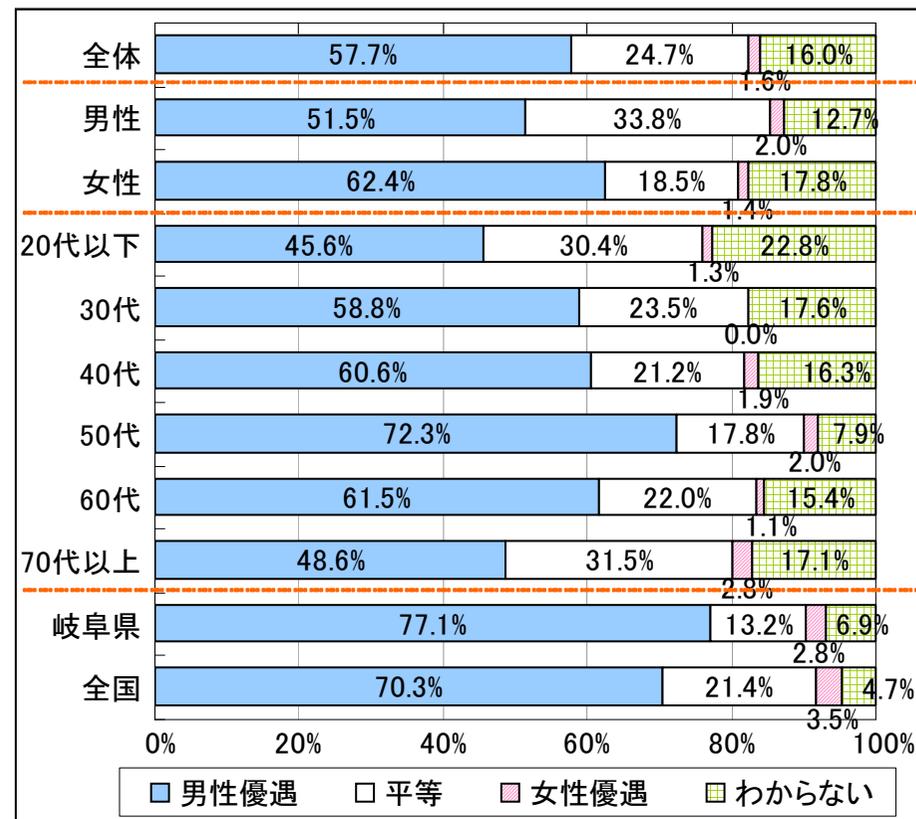
(2) 各分野の状況③ (法律や制度、社会通念やしきたり・慣習)

- 【法律や制度】(図17)においては、「平等である」の割合が4割程度となっており、各分野と比較すると、性別や年齢別、岐阜県や全国の動向に大きな差異は見られません。
- 【社会通念やしきたり・慣習】(図18)では、「男性優遇である」の割合が最も高くなっており、特に年齢別の50代では72.3%と高い割合となっています。岐阜県や全国ではともに7割を超えており、市のほうが「男性優遇である」の割合は低くなっています。なお、岐阜県では8分野のうちこの分野が「男性優遇である」との割合がもっとも高くなっています。

【図17 法律や制度】



【図18 社会通念やしきたり・慣習】

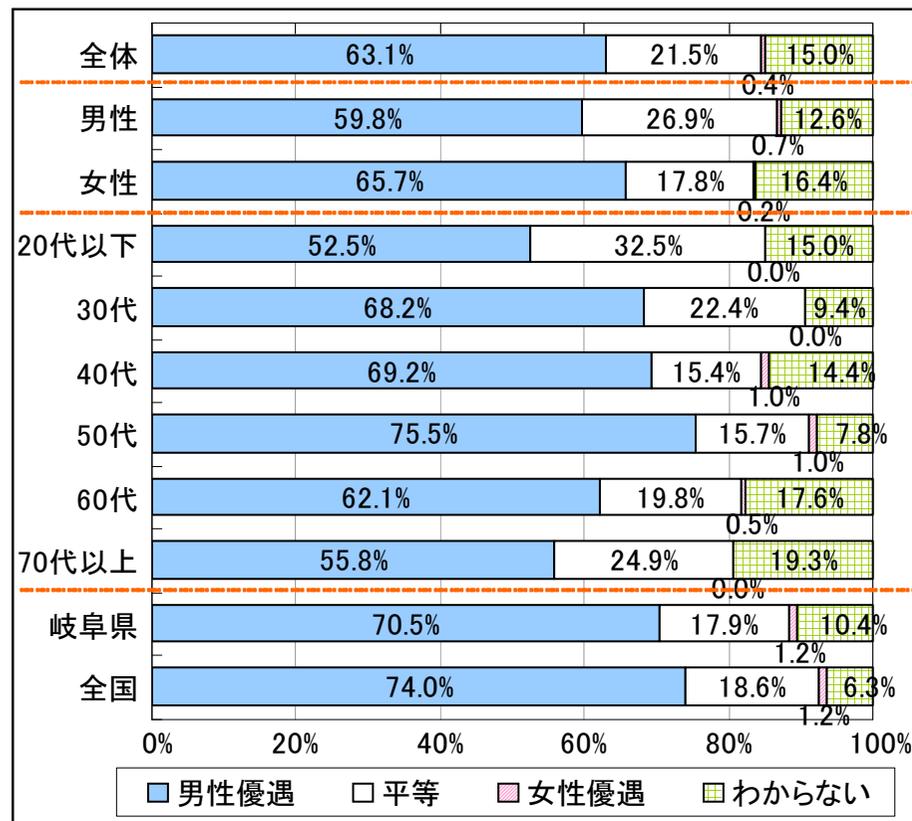


4. 男女平等に関する意識

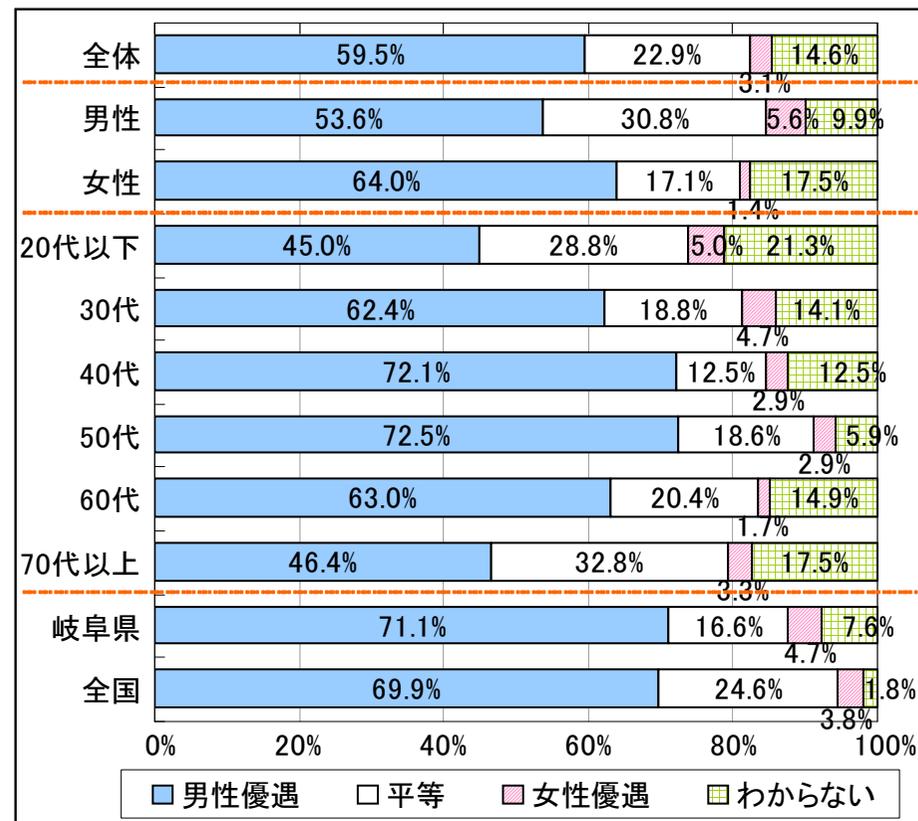
(2)各分野の状況④（政治の場、社会全体）

- 【政治の場】(図19)が8分野の中で最も「男性優遇である」の割合が高くなっており、全体でも63.1%となっています。特に50代では75%を越える割合となっています。岐阜県と全国においてはさらに高い割合となっており、全国においては土岐市と同様に8分野の中で最も高い割合となっています。
- 【社会全体】(図20)においても「男性優遇である」の割合が最も高く、「平等である」の割合は2割程度にとどまっています。

【図19 政治の場】



【図20 社会全体】

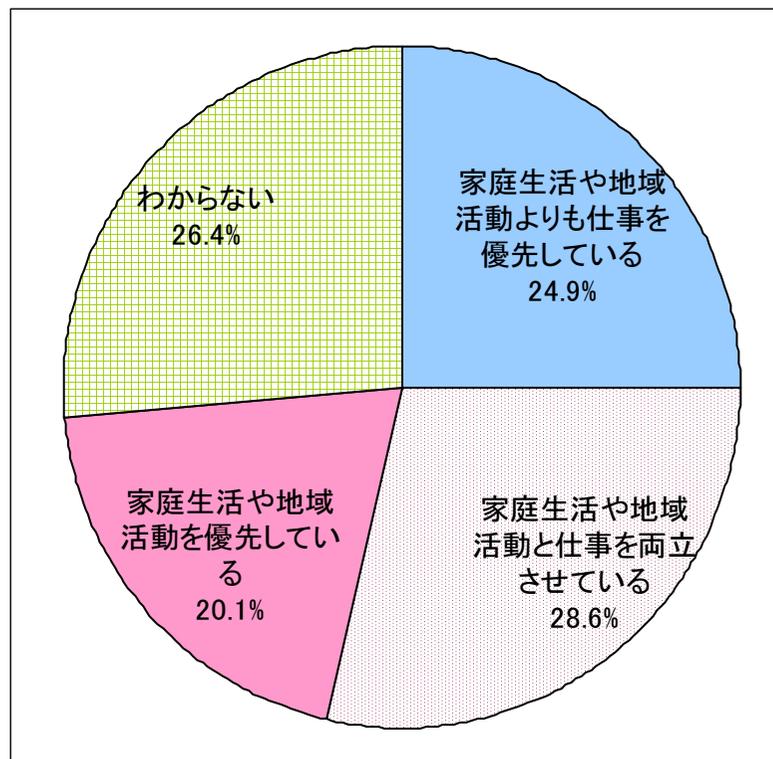


5. 生活全般についての理想と現実

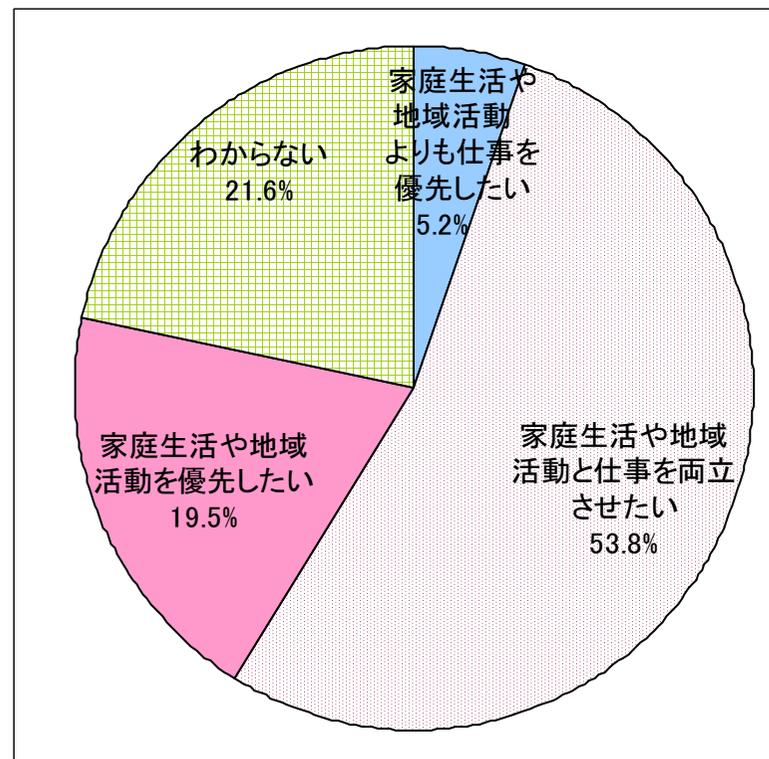
(1)理想と現実の状況①

- 生活全般について、現在の状況(図21)と理想の状況(図22)を尋ねました。現在の状況では「家庭生活や地域活動と仕事を両立している」との回答割合は28.6%でしたが、理想では53.8%となっています。
- 現在の状況では「仕事を優先している」との回答割合は24.9%ありましたが、理想の状況では5.2%と大きく減少しています。
- 「家庭生活や地域活動を優先している」の割合は現在の状況と理想の状況では大きな変化が見られませんでした。

【図21 現在の状況】



【図22 理想の状況】

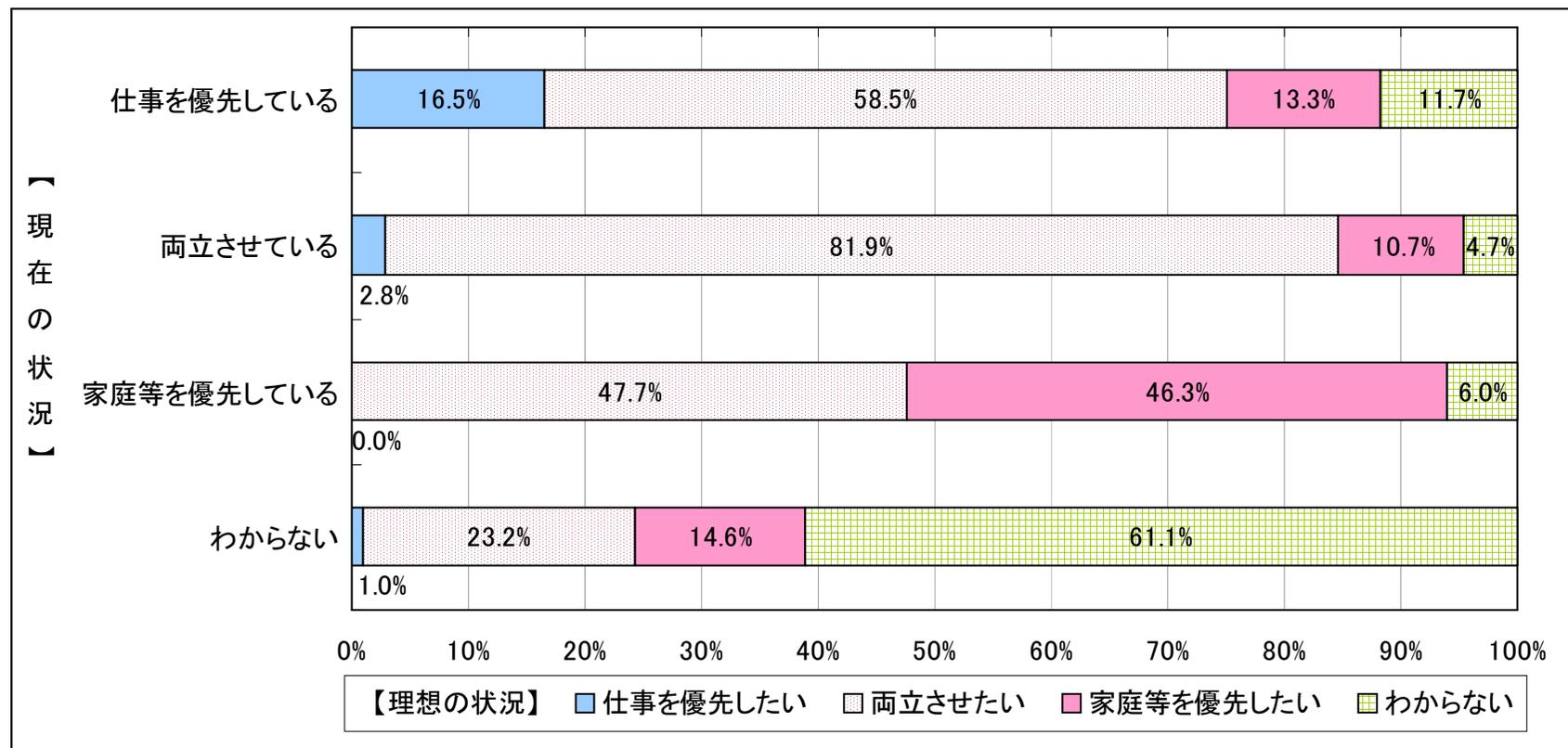


5. 生活全般についての理想と現実

(1)理想と現実の状況②（クロス集計結果）

- 現在は「仕事を優先している」と回答された方も「仕事と家庭等を両立させたい」と考えている方が多くなっています。
- 現在「両立させている」と回答された方の中でも2.8%の方は「仕事を優先させたい」と考えている方がありましたが、現在「家庭等を優先している」と回答された方の中には「仕事を優先させたい」と考えている方はありませんでした。
- 「家庭等を優先している」と回答された方は理想の状況も「家庭等を優先したい」と回答される方が多くなっています。

【図23 現在の状況×理想の状況】

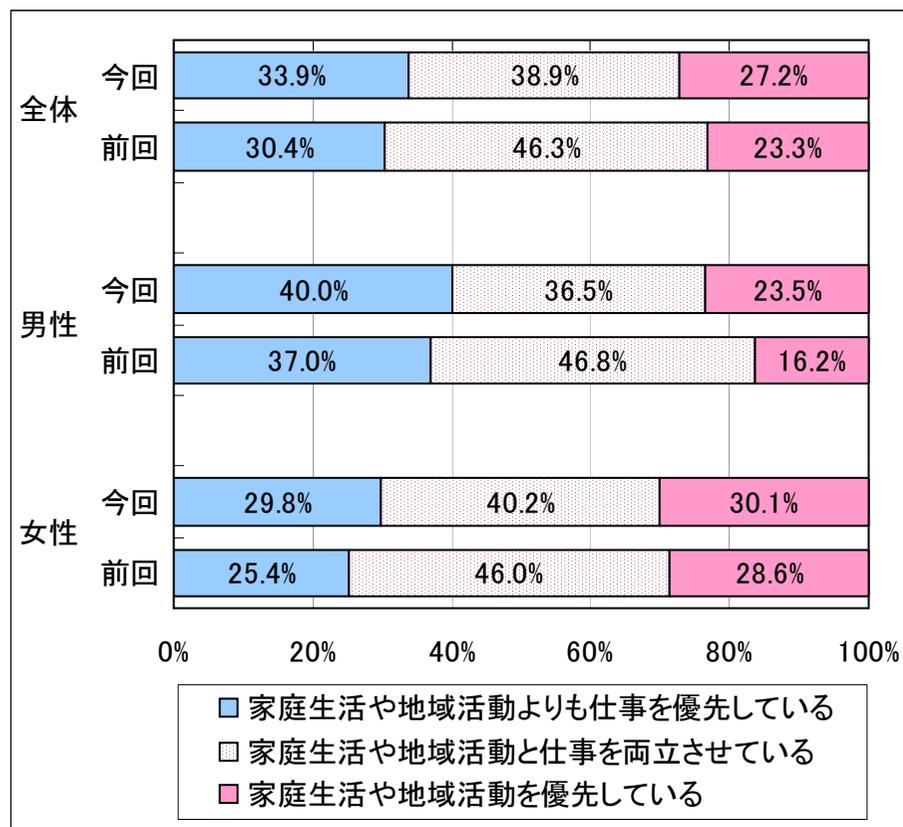


5. 生活全般についての理想と現実

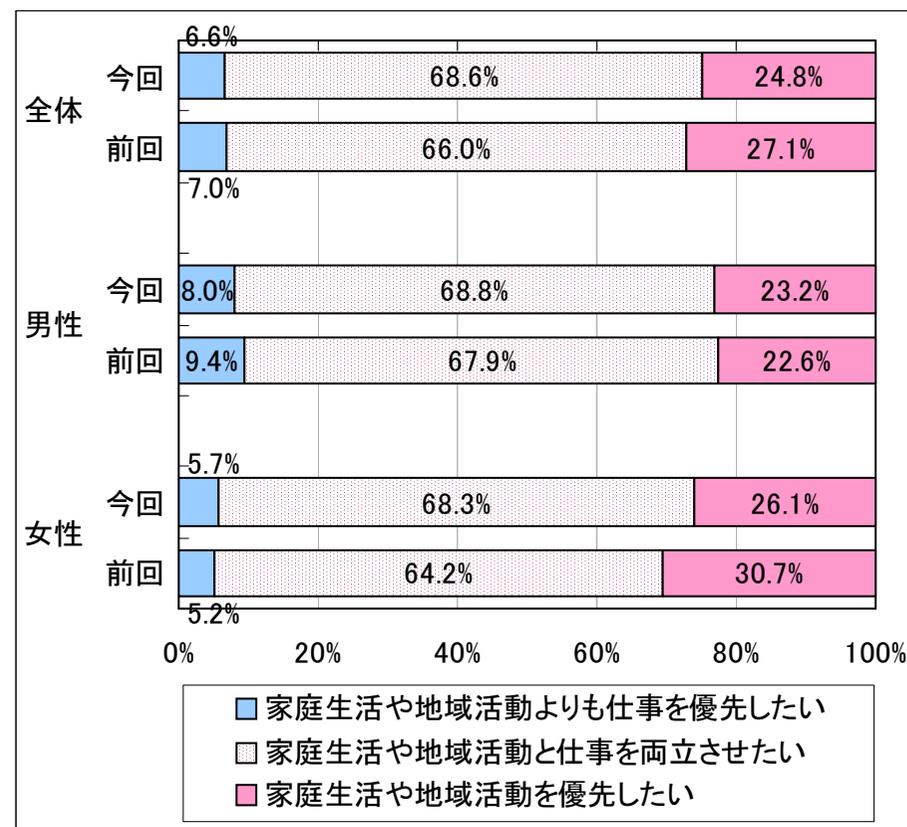
(1)理想と現実の状況③（前回調査との比較）

- 生活全般についての現在の状況を前回調査と比較する(図24)と、「家庭生活と仕事を両立させている」の割合が減少しています。特に男性の減少率が大きくなっています。
- 理想の状況(図25)については、現在の状況ほど前回調査から大きな変化は見られませんでした。現在の状況とは逆に「家庭生活と仕事を両立させたい」の割合は増加しています。

【図24 現在の状況の前回調査との比較】



【図25 理想の状況の前回調査との比較】



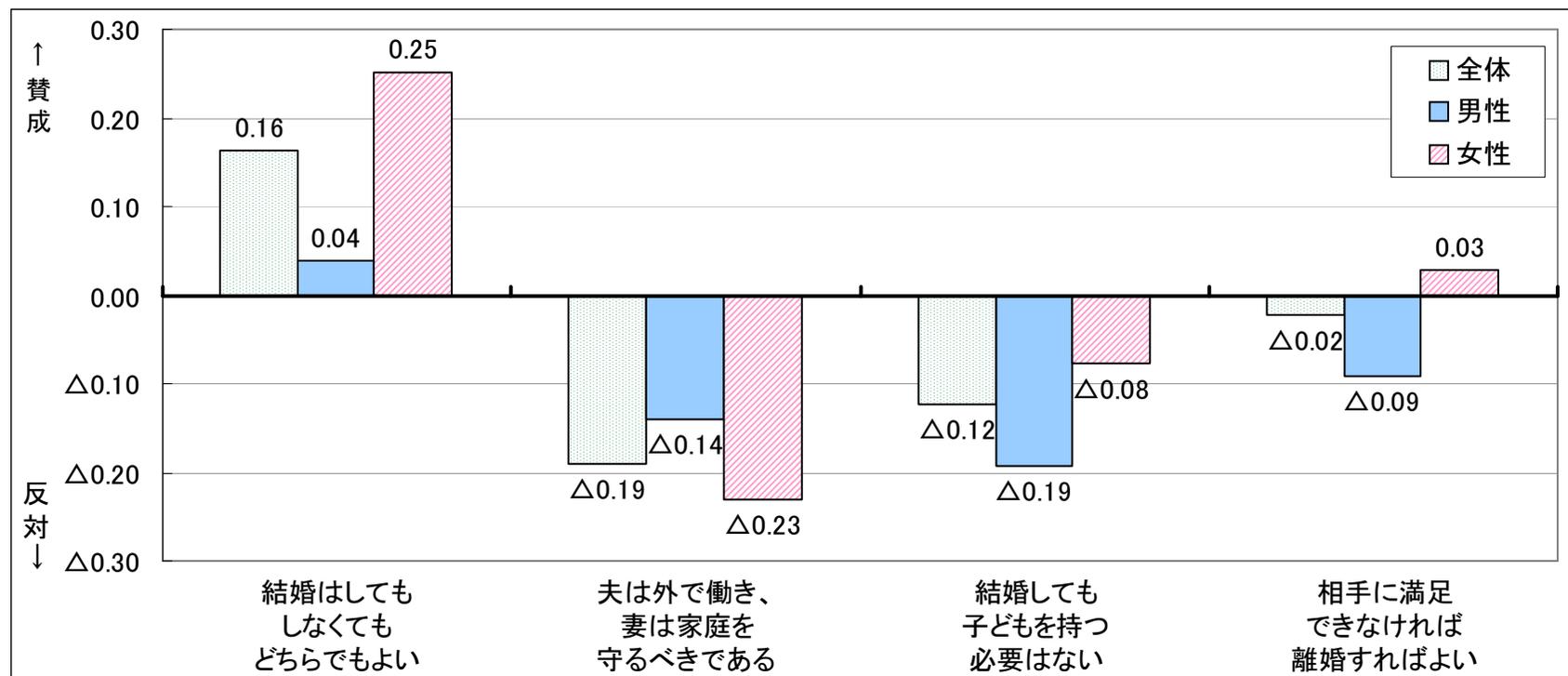
※比較のため、「わからない」を除いています。

6. 結婚、家庭等についての考え方

(1) 総括

- 結婚や家庭等についての考え方を賛成・反対で尋ね、結果を得点化して以下の図26のようにグラフ化しました。「結婚は個人の自由なのでしてしなくてもどちらでもよい」との問いに対しては、全体的に賛成が多くなりましたが、男性よりも女性のほうが多くなっています。
- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との問いに対しては、全体的に反対が多くなりましたが、女性のほうが多くなっています。
- 「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」との問いについても反対意見が多くなりましたが、男性のほうが多くなっています。
- 「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」との問いに対しては、男性では反対が多かったのに対して、女性は賛成という結果となっています。

【図26 結婚、家庭等についての考え方】



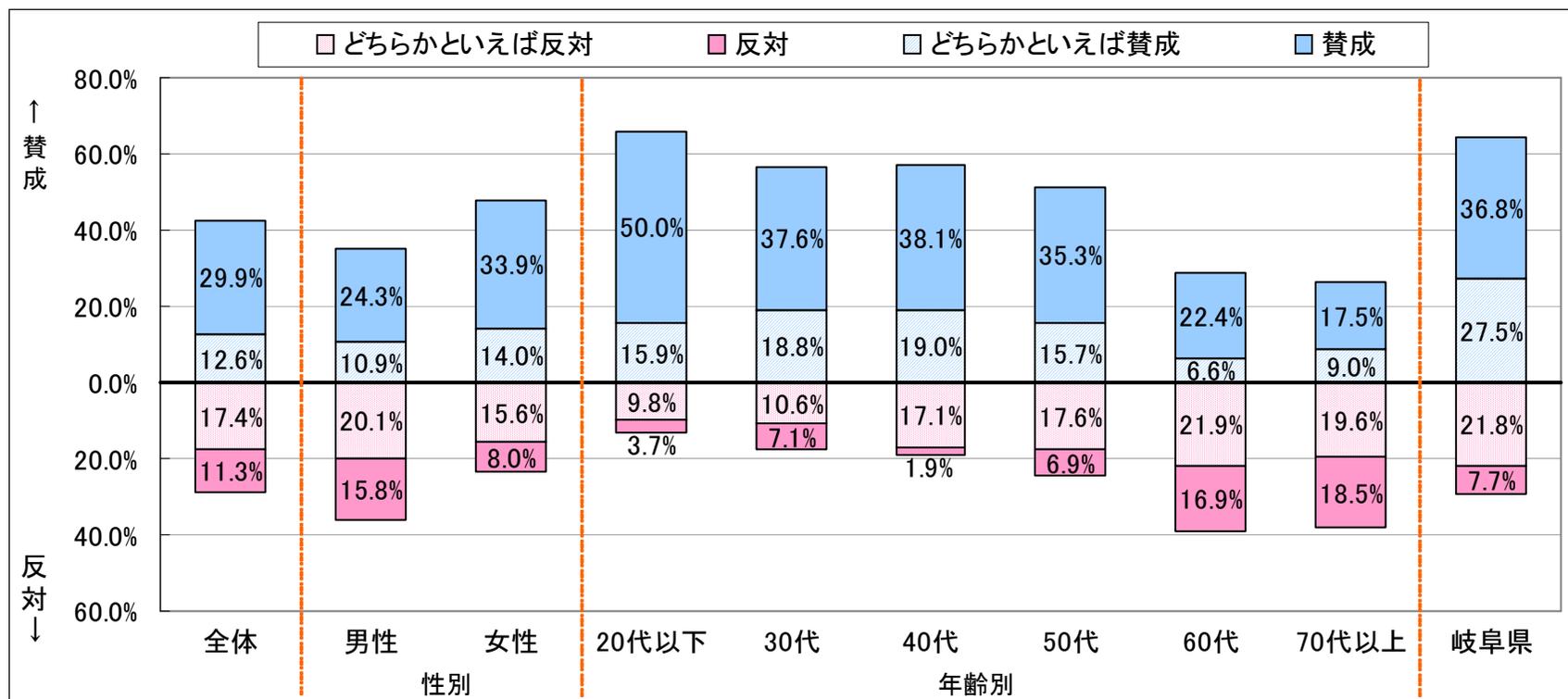
※賛成…1点、どちらかといえば賛成…0.5点、どちらともいえない…0点、どちらかといえば反対…△0.5点、反対…△1点 として点数化

6. 結婚、家庭等についての考え方

(2)結婚について

- 「結婚は個人の自由なのでしなくてもよい」との問いに対して、性別では男性では賛成と反対がほぼ同じ割合でしたが、女性では賛成の割合が47.9%と反対の23.6%を倍近く上回る結果となっています。
- 年齢別においては、50代以下では賛成の割合が高くなっており、若くなるほど賛成と反対の差が大きくなっています。60代以上では反対の割合が高くなっていきます。
- 岐阜県の調査結果は「どちらでもない」との回答が少ないため賛成・反対の数値が大きくなっていますが、市よりも賛成の割合が高くなっています。

【図27 結婚についての考え方】



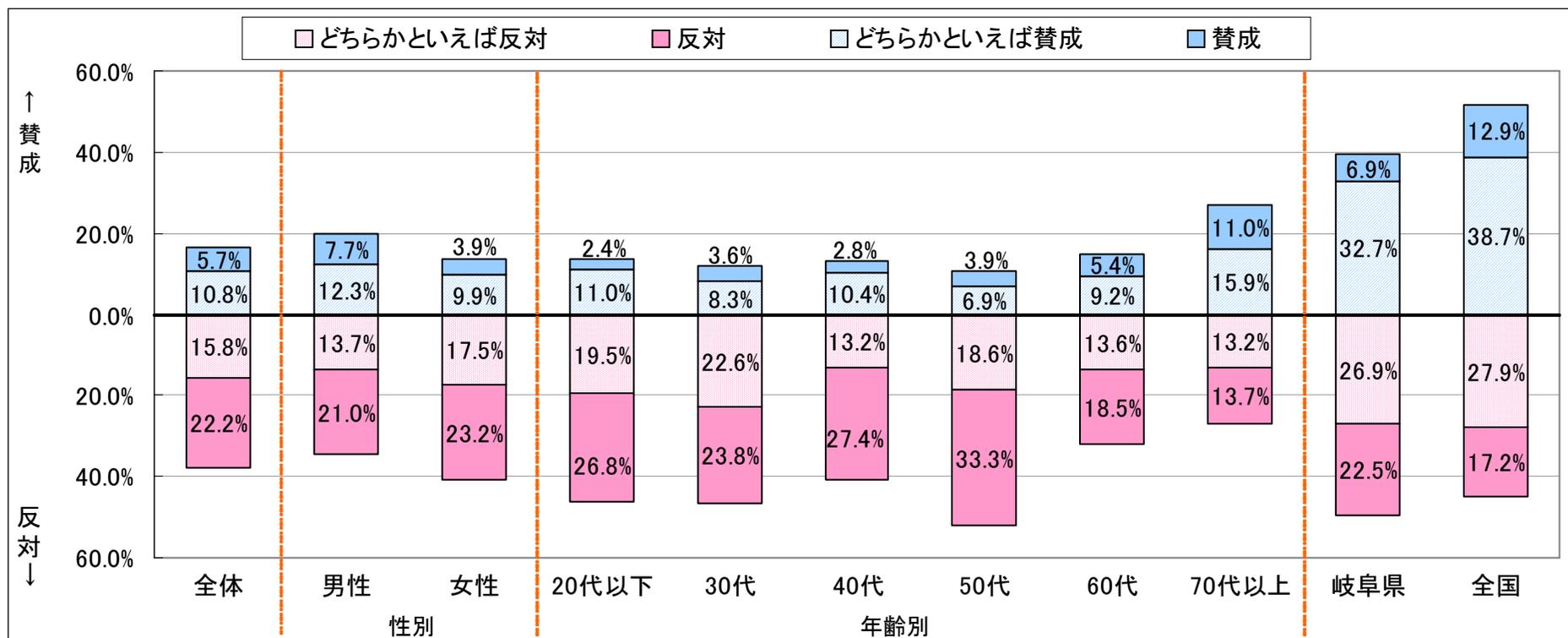
※「どちらともいえない」を除いています。

6. 結婚、家庭等についての考え方

(3) 夫婦役割分担について

- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との問いに対して、全体では反対が多くなっていますが、性別で見ると女性のほうが多くなっています。
- 年齢別ではほとんどの年代で反対多数となっていますが、特に50代で最も反対の割合が高くなっています。70代以上では反対と賛成の割合がほぼ同じとなっています。
- 全国、岐阜県の調査結果と比較すると、全国結果は賛成の割合のほうが高くなっており、特に70代以上の賛成の割合が高くなっています。岐阜県結果は市と同様反対の割合が高くなっていますが、賛成と反対の差は市よりも小さくなっています。

【図28 夫婦の役割分担について】



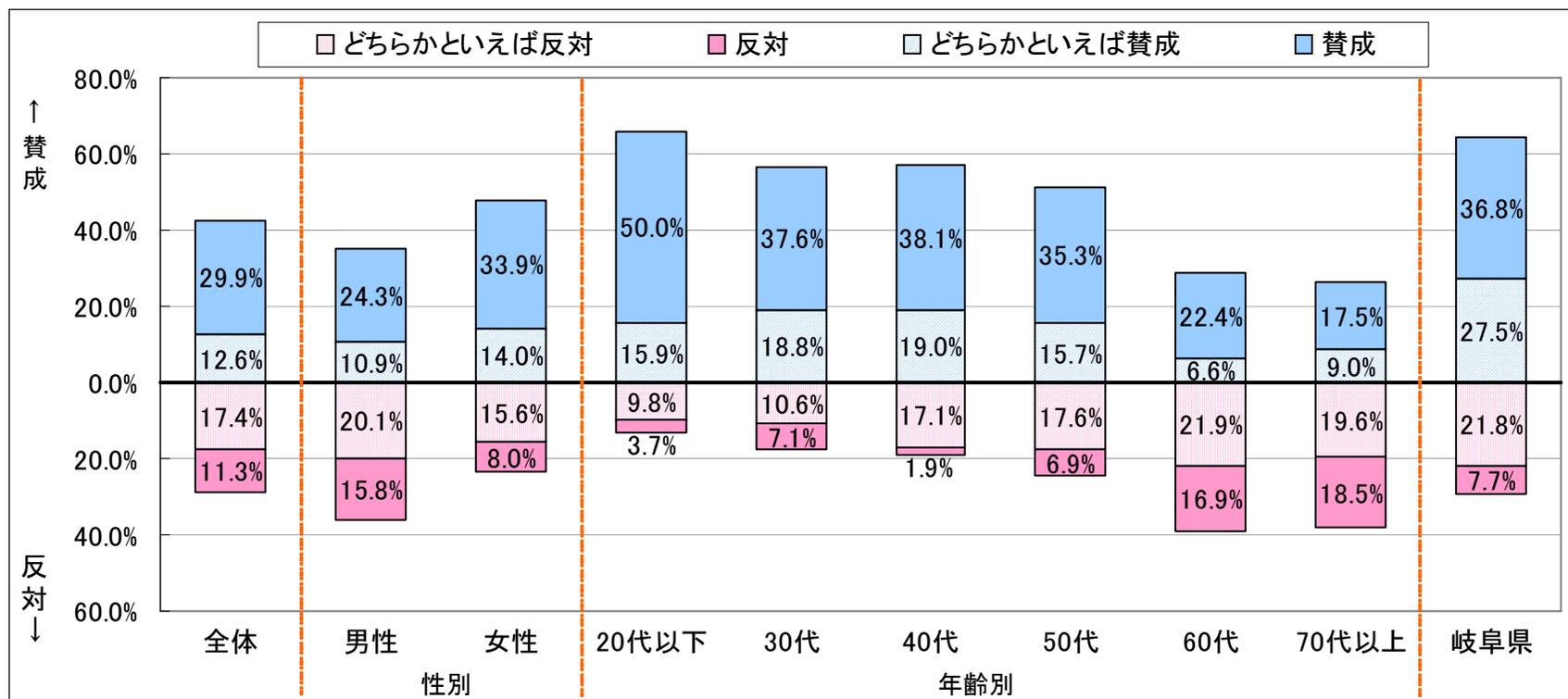
※「どちらともいえない」を除いています。全国調査ではこの項目だけが調査項目となっています。

6. 結婚、家庭等についての考え方

(4)子どもについて

- 「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」との問いに対して、全体では反対が多くなっていますが、性別では女性のほうが反対の割合が低くなっています。
- 年齢別では年代が高くなるにつれ賛成の割合が低くなっています。40代以上になると賛成よりも反対のほうが多くなっており、年代が高くなるにつれその割合が高くなっています。
- 岐阜県調査と比較すると、反対の割合のほうが高くなっていますが、賛成と反対の差は市ほど見られませんでした。

【図29 子どもについての考え方】



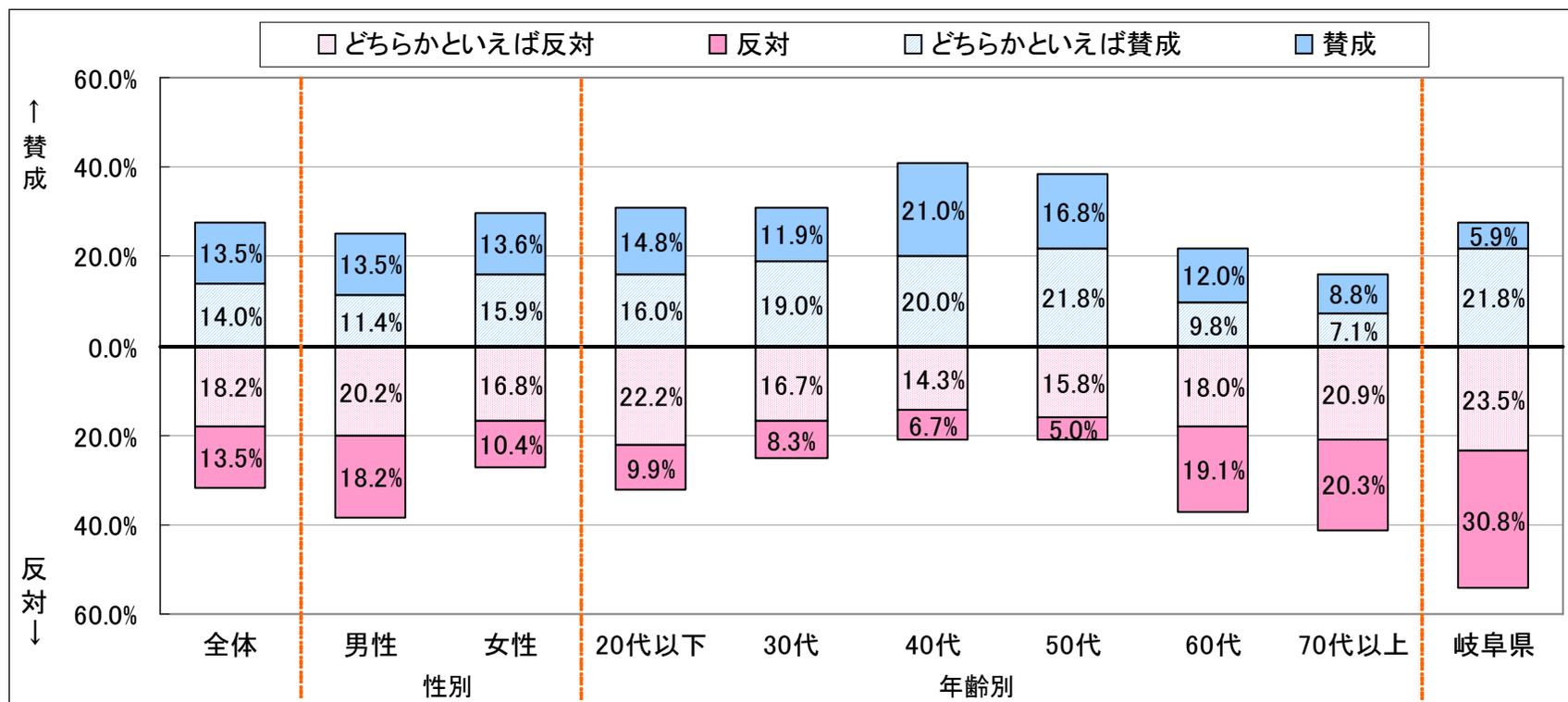
※「どちらともいえない」を除いています。

6. 結婚、家庭等についての考え方

(5) 離婚について

- 「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」との問いに対して、全体ではわずかに反対が多くなっていますが、性別では女性のほうが賛成が多くなっています。逆に男性においては反対のほうが多くなっています。
- 年齢別では40代～50代では賛成が大きく反対を上回っていますが、逆に60代以上では反対が賛成を上回っています。年齢が離れていますが、20代以下でもわずかに反対が賛成を上回っています。
- 岐阜県結果は反対多数となっていますが、市よりもその割合は高く、賛成との差も大きくなっています。

【図30 離婚についての考え方】



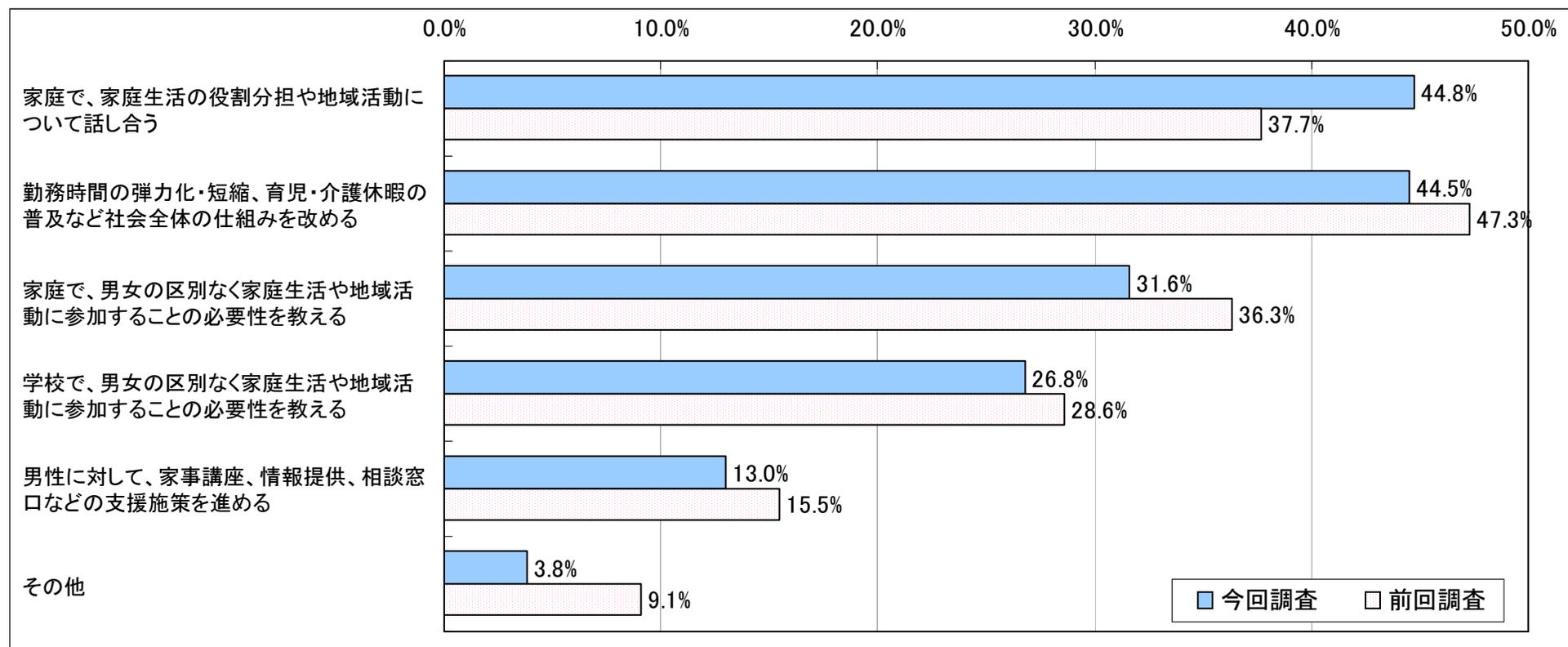
※「どちらともいえない」を除いています。

7. 男女共同参画社会の実現に向けて

(1) 男女がともに家庭生活や地域活動に参加できるようにするには

- 男女がともに家庭生活や地域活動に参加していくために必要なことを尋ねたところ(図31)、「家庭で話し合う」が44.8%と最も高く、「社会全体の仕組みを改める」が44.5%と続いています。
- 性別では回答に大きな差異は見られませんが、年齢別では20代～40代で「社会全体の仕組みを改める」の回答割合が高くなっており、60代以上では「家庭で必要性を教える」「学校で必要性を教える」の回答割合が高くなっています。
- 前回調査と比較すると「家庭で話し合う」の割合が高くなり、その他の項目については割合が低くなっています。

【図31 男女がともに家庭生活や地域活動に参加するために必要なこと】



7. 男女共同参画社会の実現に向けて

(1) 男女がともに家庭生活や地域活動に参加できるようにするには

<その他の内容>

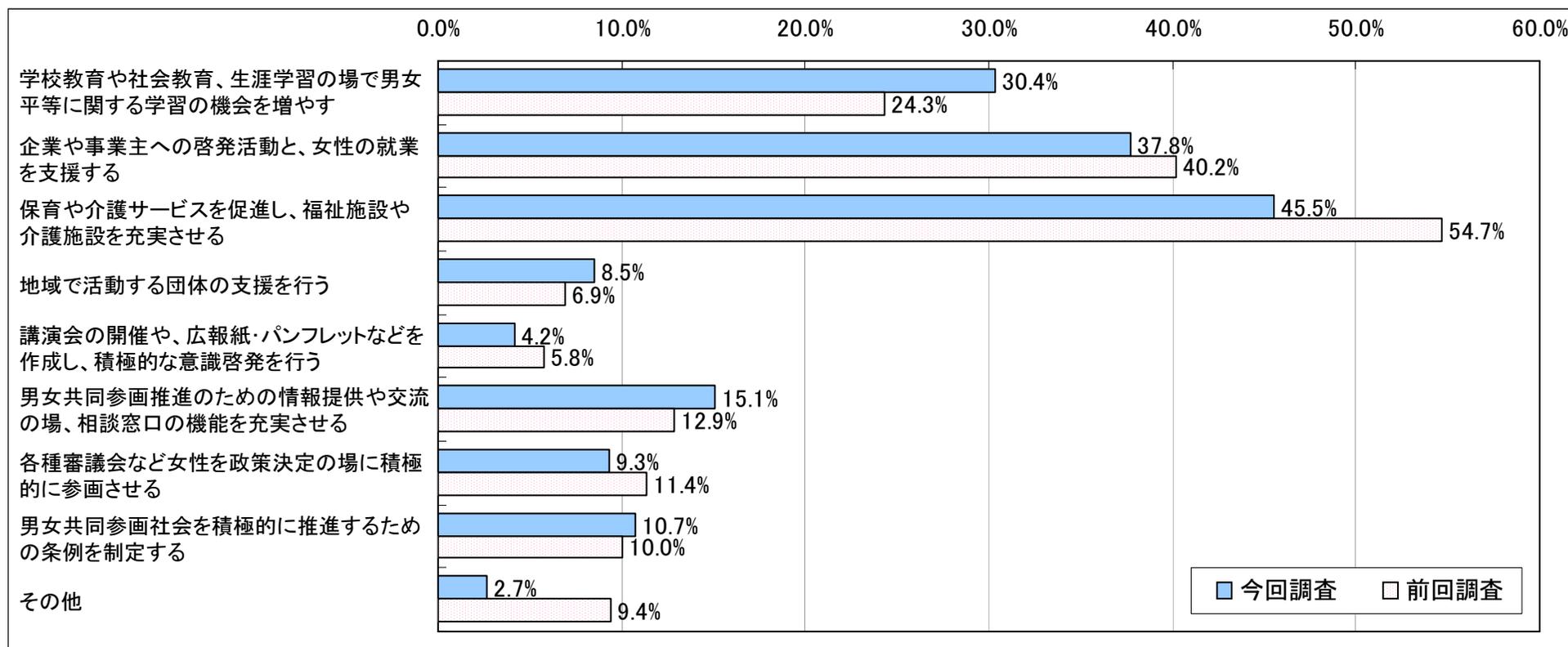
- 家庭生活と町内会活動は同次元の問題ではない。家庭内のことは家族で話し合うしかない。
- 男女平等の精神では、男女の区別はない。質問が軽視そのものである。
- 平等すぎても上手くいかないのでは。
- 男に逆らうなという年寄りをなくす。
- 倫理(道徳)の良し悪しの判断や思いやりの心を育てることが必要。
- やれる人がやればいい。
- 役割を与えられた時に苦と思わない人間を作る。人のために時間を使ったり、行動したりすることは当たり前と教える。
- 小学校の放課後教室に休みが多く(振替が休日等)、利用していても仕事を休まざるをえない。
- 病児保育・病後児保育の受け入れ、保育時間延長、放課後教室受け入れ時間の拡大など子育ての支援拡大。
- 地域活動をなくす。
- 地域活動に参加したくない。町民運動会など必要なし。皆仕方なく参加してる。休日にわざわざ他人と関わりたくない。
- 高齢化が進んでいるにもかかわらず、土岐市は地域活動が多すぎる。個人や性別によって事情が異なるので一律に参加を促す行為そのものをやめるべき。
- 男性が1人前の給与が取れない中で女性の給与はもっと低い。同じくらいの給与バランスならば必然的に参加できる。
- 社会の制度を変える。男性に対し強制力を持つしくみで。
- 男性が威張っている封建的な町内会は改善できるのか。
- 役割が終わり静かに残りの人生を暮らしている。

7. 男女共同参画社会の実現に向けて

(2) 男女共同参画社会の実現に向けて必要なことは

- 男女共同参画社会の実現に向けて必要な取り組みを尋ねたところ(図32)、「福祉・介護施設の充実」が45.5%と最も高く、「事業者への啓発活動と女性の就業支援」が37.8%、「学習機会の提供」が30.4%と続いています。
- 性別でみると女性で、「福祉・介護施設の充実」の割合が高くなっています。年齢別では30代～40代で「事業者への啓発活動と女性の就業支援」の割合が高くなっており、60代以上では「学習機会の提供」の割合が高くなっています。
- 前回調査と比較すると「学習機会の提供」の割合が高くなり、「福祉・介護施設の充実」の割合が低くなっています。

【図32 男女共同参画社会の実現に向けて必要な取り組み】



7. 男女共同参画社会の実現に向けて

(2) 男女共同参画社会の実現に向けて必要なことは

<その他の内容>

- 企業に補助をするなど環境をつくる。
- 女性が就業した際のリスクを軽減させる仕組みをつくる。
- 助成等の増額。
- 女性を優遇する制度、仕事を廃止すべき。
- 男女にこだわる考え方をしないことを教育する。
- 男女平等などと言いすぎない。
- 男性の育児休暇。
- 男性の意識改革。
- 必要かどうかわからない。
- 平等・公平・差別・区別などの本来の意味をはき違えないように正しく理解する必要がある。
- もっと町内などの人たちとのつきあいをしたいが、つつましく暮らしている。

8. 自由意見

自由意見（※男女共同参画に関するものを抜粋）

- いつもいきいきコラムで情報を寄せられていることに感謝する。土岐市として何をしているのか。この点についても提供してもらいたい。男女共同参画というだけでなく、市として何をすべきか、市民に何を参画してもらうべきか。参画の姿が見えない。（肥田町、男性、60代）
- 国政が市政に反映しており、市政のみでは判断できない。男女共同参画と言っても、土岐市は女性職員の雇用が少なく、夫婦で職員の場合、両者とも管理職登用がないなど問題外。（泉町、女性、60代）
- 男は男らしく、女は女らしくという教育をすべき。（下石町、女性、50代）
- 土岐市には古い考え方を持った男性（企業）が多く、女性に対して給与等の待遇も悪い。（泉町、女性、40代）
- 男性より女性の賃金が少ない。（曾木町、女性、50代）
- 設問にあった男女平等について、平等がすべてとは思わない。差別は良くないが、区別は必要では。（下石町、女性、20代）
- 男女共同参画の講演会の開催や広報誌等の積極的な意識啓発について、良いことをたくさんやっているのかもしれませんが、一部の人が知らなさすぎる。堅いものばかりすぎて若い人も興味が持てないのではないか。（泉町、女性、30代）